

平成31年3月期 第74期 業績概要

桂川電機株式会社

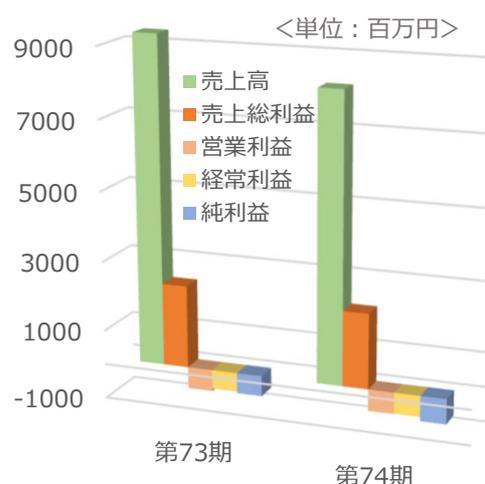
当連結会計年度（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）におきまして、当社グループは、新製品の市場投入等、北米市場や欧州市場の潜在的な顧客層に対する大判型カラープリンターニーズを掘り起こすための活動を展開し、売上向上を目指してきましたが、競合他社との企業間価格競争は依然として激化しており、現行のモノクロ機も前年度の売上げを下回る結果となりました。また、新製品の開発において時間を要してしまい、北米市場及び欧州市場への導入がと遅れたことも売上げが落ち込む要因となりました。

このような結果、当社グループにおける当連結会計年度の売上高は、81億86百万円（前連結会計年度は93億38百万円）となりました。営業利益は6億15百万円の営業損失（前連結会計年度は6億20百万円の営業損失）、経常利益は営業外収益に為替差益10百万円を計上したこと等により6億4百万円の経常損失（前連結会計年度は5億43百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する当期純利益は特別損失に子会社の減損損失1億28百万円を計上したことから7億22百万円の親会社株主に帰属する当期純損失（前連結会計年度は5億87百万円の親会社株主に帰属する当期純損失）という結果となりました。

<単位：百万円>

項目	第73期	第74期
売上高	9,338	8,186
売上総利益	2,367	2,151
営業損益	△620	△615
経常損益	△543	△604
親会社株主に帰属する当期純損益	△587	△722

連結業績概況



市場の縮小や顧客ニーズの変化など業界全体が対応をテーマとするなかで、当社グループにおきましては、新製品の市場投入等、北米市場や欧州市場の潜在的な顧客層に対する大判型カラープリンターニーズを掘り起こすための活動を展開し、売上向上を目指しております。また、安定した品質とコスト競争力を備えた新製品の開発、ならびに製品生産体制の効率化、更なるコストダウン、経費等の改善による業績の挽回に注力してまいります。

長年培ってきた電子写真技術を駆使し、今後成長が見込める新たな分野として開発を進めてきました、食器やタイルなどセラミック用途向けデカルプリンターおよびアパレル産業向け昇華転写捺染用カラープリンターにおいても業界への本製品浸透と拡販を目指して参ります。

経営体制の強化

当社は、令和元年6月27日開催予定の第74回定時株主総会の終結の時をもって任期満了となります現取締役5名に加え、経営体制の強化のため下記2名を取締役(新任)に選任する予定です。

当社の本部長を歴任し、当社事情、画像情報機器に関する高度な専門知識および業界事情にも精通した取締役の就任により、意思決定の迅速性・機動性を阻害されることなく経営体制の強化を図ってまいります。

氏名 (生年月日)	略歴	所有する当社株式の数
鈴木 真 (昭和39年10月25日生)	昭和62年4月 平成25年1月 平成25年7月 平成30年4月 平成31年4月 当社入社 事務機事業本部長代理 事務機事業本部長 事務機事業本部長兼製品開発管理本部長 製品開発本部長(現任)	- 株
田代 雅也 (昭和51年2月12日生)	平成20年3月 平成27年4月 平成28年4月 平成29年7月 当社入社 販売管理本部長代理 販売管理本部長代理兼先行技術研究本部長代理 先行技術研究本部長兼販売管理本部長代理(現任)	- 株

令和元年6月27日開催予定の第74回定時株主総会の選任決議をもって正式に決定される予定です。

次期の見通し

令和2年3月期(平成31年4月1日から令和2年3月31日)は、米国の政策動向や中国経済の先行き、英国のEU離脱問題等、当社グループを取り巻く経済環境は、依然として不透明な状況が続くものと予想されます。

当社グループにおける経営環境は、新たな分野への付加価値の高い製品の投入や国内・海外の事業の選択と集中をさらに進め、安定的で収益性の高い事業への改革を目指して積極的に推進してまいります。また、損益改善に努め企業体質の強化を図ってまいります。一方、業績につきましては、今後とも競合他社との企業間競争の激化や為替の変動により売上げや利益は圧縮され、部材等の価格高騰などにより、原価の低減も難しいことから当社グループが受ける影響は大きく厳しい状況で推移するものと見ており、現段階の予想におきましては残念ですが、当社グループの連結営業利益は4億10百万円の損失、連結経常利益は4億円の損失、親会社株主に帰属する当期純利益は3億60百万円の損失を予想しております。

次期の業績予想につきましては、為替レートを1ドル108円、1ユーロ123円と想定し、当社グループの連結売上高は86億円を予想しております。

上記の連結業績予想につきましては、発表日現在において想定できる情報に基づいて作成したものであり、今後、さまざまな要因によって予想数値と異なる可能性があります。

<単位：百万円>

	第75期 予想
売上高	8,600
営業利益	△410
経常利益	△400
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△360